

大阪 あちこち

●天満橋から北浜・中之島かいわい

—わが国を代表する近代建築群—

天満橋から北浜、中之島の一帯にかけては、明治期、大正期、昭和期のそれぞれにおいて、わが国を代表する質の高い近代建築が集中して残っていることでよく知られています。

天満橋周辺には、旧造幣寮の応接所として建てられた泉布観（せんぷくわん明治4年竣工）があります。コロニアル様式と呼ばれ、わが国の近代建築のスタートを飾る建築として特筆されています。また、北浜周辺にも、堺筋の両側に多くの近代建築が残されています。御堂筋ができる以前の大阪のメインストリートの雰囲気を感じることができます。



泉布観

中之島に目を移すと、まず明治期の建築としては、大阪府立中之島図書館（明治37年竣工）があげられます。設計者は西洋古典主義建築の名手、野口孫市まごいちです。アメリカ留学の経験を活かして設計されたもので、この時代を代表する端正な建築です。次に大正期を代表する建築としては、大阪市中央公会堂があげられます。大正7年の竣工で、設計者は当時新進気鋭の建築家、岡田信一郎です。正面のアーチなどに西洋建築のセオリーにとらわれない大胆なデザインが駆使されています。さらに昭和期を代表する建築としては、三休橋筋を南に下ったところにある綿業会館（昭和6年竣工）があげられます。設計者の渡辺節せつは西洋建築の手法を



大阪市中央公会堂

完全に会得し自らのスタイルを確立した建築家で、綿業会館はその代表作といえるものです。大阪ガスビル（昭和8年竣工）も、大阪を代表する建築家安井武雄の代表作としてあげることができます。水平線を強調したデザインや大きく開いたガラス窓など新しいデザインは新鮮で、その後続くオフィスビルの先駆けとなりました。

今回は国指定の重要文化財を中心に紹介しましたが、ほかにもこの界限には貴重な近代建築がたくさんあります。これらの建築には、戦後の機能主義一辺倒の建築が失ってしまった自らの存在を示す“誇り”と共に“温かみ”を感じることができます。現代人がこれらの建築に魅かれる理由ではないでしょうか。



▼お問い合わせ先▼

大阪市教育委員会事務局生涯学習部
文化財保護課

TEL 06-6208-9166